

ISBBA KANTO

公益社団法人日本農芸化学会

2024年度 関東支部大会

報告者 伏信 進矢(東京大学大学院農学生命科学研究科) / 2024年9月5日

8月30日(金)、東京大学弥生講堂にて2024年度支部大会が開催されました。今年度も昨年と同様に金曜日開催にいたしました。台風10号の影響で午前中は強い雨が降っていましたが、250名を超える皆様(一般93名、学生163名)にご参加いただきました。



9時40分より伏信(支部長)による開会の辞の後、9時45分から11時45分までポスター発表が一条ホールのロビーとアネックス・セイホクギャラリーで行われました。ポスターの発表件数は84件(うち優秀発表賞のエントリー55件)で、奇数・偶数の演題に分かれ、各60分のディスカッションタイムの間、熱気に溢れた活発な議論が交わされました。

昼食の後、12時50分から口頭発表17件(うち優秀発表賞のエントリー11件)が一条ホールにて行われました。発表時間9分、質疑応答2分という時間でしたが、農芸化学全体にわたる幅広い分野から興味深い発表が次々に行われ、活発な議論が行われました。

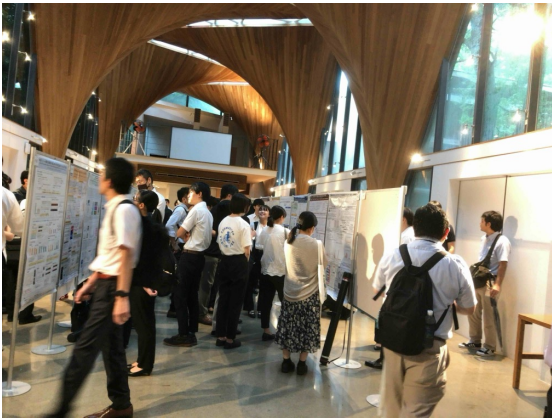
16時21分からはダイバーシティ推進委員会の小川哲弘委員から「農芸化学会のダイバーシティ推進の現状と課題」と題して、第五回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(2021)の日本農芸化学会会員解析結果を中心にご紹介がありました。今回の支部大会では、ダイバーシティ推進活動の一環として、冊子「農芸化学分野のロールモデルたち」の配布も行いました。



一条ホール ロビーでのポスター発表の様子

JSBBA KANTO

16時40分からは、3月の農芸化学会2024年度大会で受賞された3名の先生方にご講演をいただきました。農芸化学技術賞をご受賞されたハウス食品グループ本社からは渡辺聡先生により「PCRによる食物アレルギー検査法の開発、公定法化、市販キット化」についてご講演いただきました。農芸化学女性研究者賞を受賞された小林彰子先生(東京大学)からは「ポリフェノールの体内動態と機能性研究」について、農芸化学女性企業研究者賞を受賞された柳樂明佳先生(株式会社 明治)からは「乳タンパク質の健康機能に関する研究」について、それぞれご講演いただきました。関東支部での女性研究者や企業研究者の皆様の顕著な研究成果の一端に触れることが出来ました。



セイホクギャラリーでのポスター発表の様子

懇親会の席では、学生会員が発表者である演題を選考対象として優秀発表賞の発表が行われ、高い評価を得た口頭発表部門の3名、ポスター発表部門の11名にそれぞれ賞状と副賞が授与されました。

竹中副支部長の閉会の挨拶の後には、会場を農学部生協食堂に移し、懇親会が行われました。一般62名、学生50名、合わせて112名の皆様にご参加いただき、和やかな情報交換の場となりました。



当日は天候が悪いうえにまだ残暑の厳しい時期ではありましたが、大勢のみなさんにご参加いただきまして盛況となり、学生や若手からベテランまで一緒になって農芸化学の幅広い研究について学び、議論する場が生まれていました。

末筆ではございますが、ご参加いただいたみなさま、ご講演くださいました皆さま、関東支部大会の開催・運営にご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。